

住友林業情報システム株式会社

私たちは住友林業グループ唯一のIT企業として、
木と人と、永遠に続く豊かな暮らしまでも見据え、
そのシステム開発・運用を一手に担っています。

会社名	住友林業情報システム株式会社
事務所	〒261-8501 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-3 幕張テクノガーデンB棟7階
代表者	代表取締役執行役員社長 金森 朗
設立	1991年（平成3年）11月1日
資本金	1億円（住友林業株式会社100%出資）
社員数	145名（2019年12月1日現在）
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・情報システムのコンサルティング・システムインテグレーションサービス、ソフトウェア開発・ネットワークソリューションサービス・ヘルプデスク、IT教育・EDIサービス

テーマ：

『IT業界と私のキャリア』

1. 住友林業グループについて

まずは住友林業グループについて簡単に説明をします。

グループの経営理念は、以下の通りです。
『住友林業グループは、公正、信用を重視し社会を利するという「住友の事業精神」に基づき、人と地球環境にやさしい「木」を活かし、人々の生活に関するあらゆるサービスを通じて、持続可能で豊かな社会の

実現に貢献します。』

木を中心とした事業で社会貢献をしているグループです。

江戸時代、住友家は銅山を経営しており、銅を採掘するために木を伐採し続けました。銅山が伐採により禿山と化した結果、雨により洪水が起き、煙害による荒廃が進み、自然が破壊されました。この惨状を目の当たりにし、住友家は自然破壊を反省し、禿山を自然に還す為に植林を始めました。これが住友林業の生い立ちです。

自然環境を守り、社会の役に立つためにきちんと事業運営をしよう、という思いが「住友の事業精神」の一文に込められてい

ます。

また、「持続可能」という言葉も入っていますが、住友林業は、木を伐採し、それを材料にして家を建て、一方で伐採した分、植林をして育てることで、地球から木をなくさないように永続的に事業活動していく、という意味が込められています。

2. 会社概要について

住友林業グループの一員である弊社の説明を致します。住友林業情報システムは、住友林業が 100 パーセント出資して 1991 年 11 月に設立したユーザー系のシステム子会社です。弊社は住友林業グループの中で唯一のシステム会社です。社員数は 145 名、次の 4 月で 150 名を突破します。所在地は海浜幕張です。

事業内容について少し触れます。

IT 企業というと、プログラム作成をする、というイメージがあるかもしれませんが、私たちの会社は外部の IT 企業と協力して、住友林業グループに様々な IT サービスを展開する仕事をしています。

主に、

- ・システムの提案および開発
- ・システムを動かす IT 基盤全般を構築、維持、監視
- ・サイバー攻撃の一括監視やセキュリティ対策
- ・IT に関する問合せ受付、操作研修の講師

など、IT 全般のサービス提供が事業内容となっています。

3. IT 業界について

今日の本論である IT 業界について説明しますが、実は、「IT 業界」という言葉には定義がありません。ここでは、インターネットやコンピューターなどの情報技術を用いてモノやサービスを扱う業界、と認識してください。

3-1. 市場規模と発展の歴史

市場規模は、売上高 17 兆円。日本の重要な基幹産業と同水準の売上高で日本に無くてはならない産業です。

特徴の一つとして、大都市集約型、即ち東京に全体の 30 パーセントの会社が、従業員では 50%の就労者が集まっていることがあげられます。大手企業を中心に中小企業も都心に集まっている構図となります。そして、現状は非常に仕事が多く、人手不足の傾向が強いので転職市場も含め求人が多い状況です。

ここ数十年で急成長した産業で、これからも更に伸びていく産業だと思います。

では、発展の歴史について説明します。

まず、1960 年代に情報サービス企業が誕生しました。ビルの 1 フロアーに大型コンピューターや様々な周辺機器を設置し、それでやっとコンピューターを動かしていた時代です。民間企業は自前でコンピューターを持てなかったため、このような専門会社に出向き借用していました。

これが 1980 年代になると、NEC や富士通などの大手メーカーがスーパーコンピューターやパソコンを作り始め、多くの

企業が導入を始めました。しかし、現在のパソコンとは異なり操作も難しく、とても素人では使いこなせない代物でした。一方、一度に処理できる性能は原稿用紙 20 枚分、データの記憶容量も今の 25 万分の 1 程度のもので、皆さんが持っているスマートフォンよりも低い性能でしたが、それでも当時は画期的なものでした。

ところが 1990 年代に、今皆さんがお使いの「Windows」という OS が発売されると世の中が大きく変わり始めました。

「Windows」が IT に与えた影響として大きかったのはマウスを使った操作性の良さに加え、インターネットに接続できるアプリケーションが標準で組み込まれていたことです。これにより、一般家庭にパソコンとインターネットが加速的に普及しました。

これと同時に並行して、1999 年頃から携帯電話が普及し始めました。携帯電話も加速的に進化し、遂に 2008 年、iPhone、俗に言うスマホが世の中に出始めました。

Windows が普及し始めたときは家庭からのインターネット接続が主でしたが、更にスマホにより屋外からの接続が可能になりました。加えて、各種情報の閲覧・記事の投稿・SNS の普及などにより、インターネット上の情報が爆発的に成長し、高度情報化社会の到来と言われるようになりました。

現在は、高度情報化が更に進み、AI・画像認識・音声認識・自動運転など、日常生活が便利になる技術が飛躍的に進化している時代となっています。

この技術の進化の流れに並行して IT 企

業も比例するように数が増えました。

まず、パソコンが出始めた 1980 年代頃、パソコンは買ったままの状態では一般企業で使うには難しいものだったので、企業で使える形にしよう、とシステム会社が増え始めました。更に大手企業では、コンピューターを使うと便利だ、ということで情報システムの専門部隊をつくり、それを子会社化し独立させることが多くなりました。

住友林業も同じように 1991 年に情報システム部門を子会社化しました。

更にインターネットの普及により、技術が高度化、且つ複雑化し、専門性が高くなったため、様々な技術に特化した IT 企業も増え始めました。

また、一般企業は社内でシステムを構築する事が技術的に難しくなり、外部の IT 企業にシステム導入を業務委託することが加速度的に増え始めました。

以上のように急激な技術の進歩とともに IT 企業も様々な形で増え続け、業界として急成長を遂げたのです。

3-2. IT 業界の職種

企業がコンピューターを導入し始めた時期、そのシステムを構築する技術者は、SE (System Engineer) と PG (Programmer) という大きな二つの職種に分かれていました。SE はシステムを設計する技術者、PG はプログラムを作成する技術者です。

私が就職したのもこの頃です。私は外国語学部出身でしたが、IT 業界全体が「SE は文系でもできる」といって人をかき集め

ていたので、就職氷河期ということもあって、IT 業界に飛び込むことにしました。

ところが、1990 年代、技術の高度化・複雑化に伴い、専門性が必要な技術が増えはじめ、システム関係の仕事をしている人は、概ね SE という枠で括られ始めました。PG も情報システムに関わる人なので、SE に含まれました。つまり SE の中に様々な職種が生まれてきたということです。

職種の一例を次に記します。

- ①セールスエンジニア
- ②ネットワークエンジニア
- ③セキュリティーエンジニア
- ④サポートエンジニア
- ⑤アプリケーションエンジニア
- ⑥テストエンジニア
- ⑦プログラマー
- ⑧プロジェクトマネージャー

..... 等々、

理系でも文系でも大きく力が発揮できる様々な職種が増えました。

3-3. IT 業界の会社のくくり

ここまで、人（職種）に関わる説明をしました。これからは、システム会社について説明します。昨今は、システム会社を総じて SIer（エスアイヤー）という言い方をします。SIer には、いくつかの括りがあります。スーパーコンピューターの開発・構築、パソコンの開発製造をしている NEC、富士通などをメーカー系、メーカーのパソコンに対してシステムを作っていく会社を独立系と言います。そして、企業が自社の情報システム部門を切り出してできた子会社をユーザー系と言います。

このように IT 業界に籍をおく会社は、メーカー系、独立系、ユーザー系、という括りに分類されます。

それぞれの括りの割合は、メーカー系は、全 IT 企業の 10%、独立系は 60%です。独立系には 2 人ぐらいの小さなベンチャー企業から何万人もいる大企業など、多種多様な形態があります。

残り 30%がユーザー系の企業です。

IT 業界のもうひとつの特徴として、ゼネコン型の重層的な下請け構造があげられます。この構造は IT 業界に限らず日本の製造業全般にも言えることで、ピラミッド型とも言われます。

企業が大規模なシステムを構築する時は、概ね大手 SIer に委託します。しかし、SIer は開発の規模が大きくなると仕事の一部を他の中小企業に委託します。

更にその中小企業も下請け会社に仕事を委託します。現在の IT 業界はこの様な多重発注構造になっています。

この様なピラミッド構造における各層の企業の役割は、システムを作るプロセスで分担されます。

元請の企業は、お客様との調整、提案、企画などを中心に行う上流工程を主に担います。一方、二次請け、三次請けの企業はものづくりを行う下流工程を担当します。上流、下流工程それぞれの役割で専門性も変わってきます。

私自身は就活時には、下流工程の役割を担う独立系の IT 企業に就職しましたが、よりお客様に近い位置でコミュニケーション能力を発揮した仕事がしたくなり、ユーザー系の SIer である現在の会社に転職し、上流工程の仕事をしています。

4. 具体的な仕事例

ここからは、具体的に上流工程での仕事がどのようなものか、私の現在の仕事を通じて紹介したいと思います。

ここでは、例として家づくりのプロである住友林業が、システムづくりのプロであるSIerに依頼した、とします。ここで、この両者の間にあるのは、言葉の壁です。住宅建築の専門用語とシステム開発の専門用語は当然異なります。文化や商習慣も違いがあります。いざ、システム開発が進んでいくとお互いの認識や言葉の理解の違い、の様な高い壁（ギャップ）が現れてきます。

この壁を壊すのが、今現在の私の担務です。つまり、これがユーザー系の会社の仕事、ということになります。

実際にシステム開発がトラブルになる原因は両者におけるコミュニケーションギャップに起因することが多いです。この様なギャップを予め埋める為、独立系やメーカー系が元請けで仕事をする場合はコンサルタントやお客様との交渉が経験豊富なSEが担当しますが、ユーザー系の会社がある企業は、その会社がギャップを埋める部分を担当します。端的に言えば通訳です。住友林業が実現したい要件をシステム用語に変換して下流工程を担当するSIerに伝えること、逆にそのSIerからの質問や課題を取りまとめ、IT用語を使わずにわかりやすく住友林業に説明（翻訳）することが主な仕事となります。また、システムの開発が進み、当初の要件と異なるシステムを組み上げているような事が起きた場合、それを軌道修正し、正常化する

のも私たちユーザー系企業の仕事となります。

ユーザー系企業では、技術力に加え、更に業務知識という能力（スキル）が必要になるのが特徴です。

5. 学生の皆さんへ (就職活動に向けて)

私の経験も踏まえ、就活を目前にしている皆さんへ、幾つかのアドバイスをします。

まず、自分の志望する業界や会社の情報収集を必ず行って下さい。インターネット等で調べた情報を必ず書き留めることが重要です。人間は忘れる生き物なので、書くことで自分の中の印象付けが深まります。面接の直前に読み返して記憶を呼び起こせるメリットもあります。

収集の際、口コミに関する部分は話半分と認識し、それがその会社の全てと思わないように気を付けて下さい。口コミは、ネガティブワードが非常に多い傾向があるからです。

また、必ず疑問・興味・関心事項を何かしら見つけメモし、それを説明会の機会に、必ず質問してください。これは、企業担当者に企業研究をしている印象を持ってもらえるので、必ず質問することをお勧めします。

また、自己分析も重要です。就活の場は、皆さんが会社を決める場所でもあります。実は自分の言葉で自分を説明する場所でもあります。自分がどういう人間で、どういうことを常に考えているのかなど、分析すると自分の言葉に深みが増し、相手に響きます。

6. 最後に

「彼を知り己を知れば百戦危うからず」
この言葉は、敵と味方をよく知れば、どんな戦いも敗れる心配はない、という意味です。仕事をする時は、お客様の特性、配下のメンバー構成など、全てにおいて把握することが重要です。どのようなアプローチ

をしたら部下が 100%の力を出すかなど、常に考えて仕事に当たる必要があります。これを就職活動中の皆さんの立場に置き換えると企業情報分析・自己分析が重要になる、ということになります。要は「段取り八分、仕事二分」。事前準備がとにかく大事なのでしっかりやって良い結果ができるように是非頑張ってください。